

東邦大学医学部(統一入試) 数学

2025年 2月 23日実施

1

(1) $\frac{1}{\sqrt{5}-2}$ の整数部分を a , 小数部分を b とするとき, $a = \boxed{1}$, $b = \sqrt{\boxed{2}} - \boxed{3}$ である。また, $a^2 - 3b^2 = -\boxed{4}\boxed{5} + \boxed{6}\boxed{7}\sqrt{\boxed{8}}$ である。

(2) $AB = 5$, $BC = \sqrt{14}$, $CA = 2$ の $\triangle ABC$ について, $\cos A = \frac{\boxed{9}}{\boxed{10}}$ であり, 外接円の半径は $\boxed{11}\sqrt{\boxed{12}}$ である。

(3) さいころを 1 回投げることに, 偶数の目が出たら 3 点, 奇数の目が出たら 0 点を獲得するゲームを行う。0 点から開始して, 3 回投げ終わったときに得点の合計が 3 点である確率は $\frac{\boxed{13}}{\boxed{14}}$ である。また, 0 点から開始して,

6 回投げ終わったときに得点の合計が 9 点である確率は $\frac{\boxed{15}}{\boxed{16}\boxed{17}}$ である。

(4) 方程式 $9^x - 6 \times 3^x = 27$ の解は $x = \boxed{18}$ である。また, 不等式 $\left(\frac{1}{4}\right)^x - \left(\frac{1}{2}\right)^{x-1} \leq 8$ の解は $x \geq -\boxed{19}$ である。

(5) 次のように定められる数列 $\{a_n\}$ を考える。

$$a_1 = -1, \quad a_{n+1} = 2a_n + 4 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

一般項は $a_n = \boxed{20} \times \boxed{21}^{n-1} - \boxed{22}$ である。さらに $\sum_{k=1}^8 a_k = \boxed{23}\boxed{24}\boxed{25}$ である。

解答

(1) $\frac{1}{\sqrt{5}-2} = \sqrt{5} + 2$ であり, $2 \leq \sqrt{5} < 3$ であることより

$$a = 4$$

$$b = (\sqrt{5} + 2) - 4 = \sqrt{5} - 2$$

$$a^2 - 3b^2 = 4^2 - 3(\sqrt{5} - 2)^2 = -11 + 12\sqrt{5}$$

(2) 余弦定理より $\cos A = \frac{3}{4}$ であるので, $\sin A = \frac{\sqrt{7}}{4}$ である。

よって, $\triangle ABC$ の外接円の半径を R とすると正弦定理より

$$2R = \frac{\sqrt{14}}{\sin A} \iff R = 2\sqrt{2}$$

(3) 3回の試行で得点の合計が3点となるのは、「偶数の目が1回、奇数の目が2回」出るときであるので

$${}_3C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^1 \left(\frac{1}{2}\right)^2 = \frac{3}{8}$$

6回の試行で得点の合計が9点となるのは、「偶数の目が3回、奇数の目が3回」出るときであるので

$${}_6C_3 \left(\frac{1}{2}\right)^3 \left(\frac{1}{2}\right)^3 = \frac{5}{16}$$

(4)

$$9^x - 6 \times 3^x - 27 = 0$$

$$\iff (3^x + 3)(3^x - 9) = 0$$

$3^x > 0$ より, $3^x = 9 \iff x = 2$ である。

$$\left(\frac{1}{4}\right)^x - 2\left(\frac{1}{2}\right)^x \leq 8$$

$$\iff \left\{ \left(\frac{1}{2}\right)^x + 2 \right\} \left\{ \left(\frac{1}{2}\right)^x - 4 \right\} \leq 0$$

$\left(\frac{1}{2}\right)^x > 0$ より, $0 < \left(\frac{1}{2}\right)^x \leq 4 \iff x \geq -2$ である。

(5)

$$a_{n+1} = 2a_n + 4$$

$$\iff a_{n+1} + 4 = 2(a_n + 4)$$

$$\iff a_n + 4 = (a_1 + 4) \cdot 2^{n-1}$$

$a_1 = -1$ より, $a_n = 3 \cdot 2^{n-1} - 4$

また

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^8 a_k &= \sum_{k=1}^8 (3 \cdot 2^{k-1} - 4) \\ &= 3 \cdot \frac{2^8 - 1}{2 - 1} - 4 \cdot 8 \\ &= \mathbf{733} \end{aligned}$$

2

(1) 複素数平面において、3つの複素数 $1 + 3i$, $2 - 2i$, $k + i$ の表す点が一直線上にあるとき、実数 k の値は

$$k = \frac{26}{27} \text{ である。}$$

(2) 座標空間において、3点 $A(1, 0, 0)$, $B(0, 2, 0)$, $C(0, 0, 3)$ を通る平面に原点 O から垂線 OH を下ろす。 a

$$\text{と } b \text{ を実数として } \overrightarrow{OH} = a\overrightarrow{AB} + b\overrightarrow{AC} \text{ と表すとき、 } a = \frac{28}{30} \frac{29}{30} \text{ である。}$$

(3) 関数 $f(x) = (\sin x + \cos x) \sin x \cos x$ ($0 \leq x \leq \pi$) を考える。 x が $0 \leq x \leq \pi$ の範囲を動くとき、

$$t = \sin x + \cos x \text{ のとり得る値の範囲は } -\frac{31}{31} \leq t \leq \sqrt{\frac{32}{32}} \text{ である。 } f(x) \text{ の最小値は } -\frac{\sqrt{\frac{33}{34}}}{34} \text{ である。}$$

(4) $n = 1, 2, 3, \dots$ に対して、整式 x^{n+2} を整式 $3x^2 + 4x - 4$ で割った余りを $a_n x + b_n$ と表す。このとき、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{b_n}{a_n} = -\frac{35}{36} \text{ である。}$$

(5) 座標平面において、直線 $y = \frac{3}{4}x$ を l , 円 $(x-4)^2 + y^2 = 4$ を C とする。 C の中心と l の距離は $\frac{37}{39} \frac{38}{39}$

$$\text{である。 } C \text{ で囲まれた領域を } l \text{ のまわりに } 1 \text{ 回転してできる立体の体積は } \frac{40}{42} \frac{41}{42} \pi^2 \text{ である。}$$

解答

(1) 条件より、実数 l を用いて

$$\begin{aligned} (k+i) - (1+3i) &= l\{(2-2i) - (1+3i)\} \\ \iff (k-1) - 2i &= -l + 5li \end{aligned}$$

k, l が実数であることより

$$k-1 = -l, \text{ かつ } -2 = 5l$$

よって、 $k = \frac{7}{5}$ である。

(2)

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OH} &= (1-a-b)\overrightarrow{OA} + a\overrightarrow{OB} + b\overrightarrow{OC} \\ &= (1-a-b, 2a, 3b) \end{aligned}$$

$\overrightarrow{OH} \perp \overrightarrow{AB}$, かつ $\overrightarrow{OH} \perp \overrightarrow{AC}$ より, $\overrightarrow{OH} \cdot \overrightarrow{AB} = 0$, かつ $\overrightarrow{OH} \cdot \overrightarrow{AC} = 0$ であるので

$$-1 + 5a + b = 0, \text{ かつ } -1 + a + 10b = 0$$

$$\iff a = \frac{9}{49}, \text{ かつ } b = \frac{4}{49}$$

(3) $t = \sqrt{2} \sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right)$, かつ $\frac{\pi}{4} \leq x + \frac{\pi}{4} \leq \frac{5}{4}\pi$ より

$$-\frac{1}{\sqrt{2}} \leq \sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right) \leq 1 \iff -1 \leq t \leq \sqrt{2}$$

また, $\sin x + \cos x = t$ より $\sin x \cos x = \frac{t^2 - 1}{2}$ より

$$\begin{aligned} f(x) &= t \cdot \frac{t^2 - 1}{2} \\ &= \frac{t^3}{2} - \frac{t}{2} \quad (= g(t) \text{ とおく}) \end{aligned}$$

であるので

$$g'(t) = \frac{3}{2} \left(t + \frac{1}{\sqrt{3}} \right) \left(t - \frac{1}{\sqrt{3}} \right)$$

よって, 増減を調べること (略) で求める最小値は, $f\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = -\frac{\sqrt{3}}{9}$ である。

(4) 商を $Q_n(x)$ とすると

$$x^{n+2} = (x+2)(3x-2)Q_n(x) + a_n x + b_n$$

$x = -2, \frac{2}{3}$ を代入して, a_n, b_n についての連立方程式を解くことで

$$\begin{cases} a_n = \frac{3}{8} \left(\frac{2}{3}\right)^{n+2} - \frac{3}{8}(-2)^{n+2} \\ b_n = \frac{3}{4} \left(\frac{2}{3}\right)^{n+2} + \frac{1}{4}(-2)^{n+2} \end{cases}$$

よって

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{b_n}{a_n} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\frac{3}{4} \left(\frac{2}{3}\right)^{n+2} + \frac{1}{4}(-2)^{n+2}}{\frac{3}{8} \left(\frac{2}{3}\right)^{n+2} - \frac{3}{8}(-2)^{n+2}} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\frac{3}{4} \left(-\frac{1}{3}\right)^{n+2} + \frac{1}{4}}{\frac{3}{8} \left(-\frac{1}{3}\right)^{n+2} - \frac{3}{8}} \\ &= \frac{\frac{1}{4}}{-\frac{3}{8}} = -\frac{2}{3} \end{aligned}$$

(5) C の中心 $(4, 0)$ と $\ell: 3x - 4y = 0$ の距離は

$$\frac{|3 \cdot 4 - 4 \cdot 0|}{\sqrt{3^2 + (-4)^2}} = \frac{12}{5}$$

したがって, 求める体積は円: $\left(x - \frac{12}{5}\right)^2 + y^2 = 4$ を y 軸のまわりに 1 回転させてできる立体の体積に等しい。

ここで, $\left(x - \frac{12}{5}\right)^2 + y^2 = 4 \iff x = \frac{12}{5} \pm \sqrt{4 - y^2}$ であり,

$x_1 = \frac{12}{5} + \sqrt{4 - y^2}, x_2 = \frac{12}{5} - \sqrt{4 - y^2}$ とすると, 求める体積 V は対称性に注意して

$$\begin{aligned} \frac{V}{2\pi} &= \int_0^2 x_1^2 dy - \int_0^2 x_2^2 dy \\ &= \frac{48}{5} \int_0^2 \sqrt{4 - y^2} dy \end{aligned}$$

$\int_0^2 \sqrt{4-y^2} dy$ は半径 2 の四分円の面積を表すから

$$V = 2\pi \cdot \frac{48}{5} \cdot \frac{4\pi}{4} = \frac{96}{5}\pi^2$$

注釈

パップス・ギュルダンの定理を用いて

$$4\pi \times 2\pi \cdot \frac{12}{5} = \frac{96}{5}\pi^2$$

講評

① [小問集合 (数 I A II B)] (易) : (1) 数と式, (2) 三角比, (3) 確率, (4) 指数関数, (5) 数列からの出題であった。どれも教科書レベルであり, ここでの失点はできないだろう。

② [小問集合数 (III C)] (やや易) : (1) 複素数平面, (2) ベクトル, (3) 微分法, (4) 極限, (5) 積分法からの出題であった。どれも教科書～入試基礎レベルであり, なるべく落とさたくないだろう。(3)～(5) は分野複合問題でやややりにくい。

今年度からの実施である。二次試験でも数学, 理科が課されるので一次試験の難易度としては妥当だろう。

本解答速報の内容に関するお問合せは



医学部進学予備校 **メビオ** ☎ 0120-146-156
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校 **英進館メビオ** 福岡校 ☎ 0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録 ▶



LINE 登録 ▶

